

Tišastvustik S. 70), いの意味から演舌の「演」に對せしめたものと思はれる。下の VII^b にも同語が用ゐられてある。

⑩ ärksin が Gewart anmassen über (Gabain, Analytischer Index) と解かれてゐるが、その意味から「血性」は蘇醒

⑪ p(ä)k y(a)rp čitan は「鞆町」の艦船である。yarp は Kāšgari と fest から、「町」を表して適切の語であるが、[特] は類似する čitan とのことはかゝる用例を知らない。

(12) utruq た「」の艦船や島の義である。Radloff は Kuan-ši-im Pusar, S. 31 に utruk を K明の艦とし、多く utru=gegen-über に置送する船である。本文は yäklär ärkusi utruqlarinta なるものだ。Kontext の上からすれば der Ort, wo die Yaksa sich befinden の意である。しかし既にこの船は die Insel の島に町された Otruq と讀むべきである。otrau は「」と如く「」と讀んだ。この otrau は回虫のトランク方言謡書と Tara, Kür. で島、また utrau の形で Kas.

羅刹の住むといふ島（シーロン島）に因んでこれを用ゐたのであらう。

⑬ bodul = Kāšgari は boðumaq=farben, boður=Farbe であるが、船か山の王たる事に由来する。

⑯ särinnämälig yirir 『Röse-』 & 「Röse-」 & 艤𦵹, sär-, särin- & Käšgari 『Röse-』 「Röse-」 (ausharren) 艤𦵹

K. Le Coq, Manichaica III, 16' 及び 16' に見えた s(ä)rimnäk も、漢文の波斯教殘經に對比すると「忍辱」に當る。

yirir (yorir?) は多分 yariy=Panzer の誤寫であらう。

⑯ äsäng……な äsän 「安丸」(wohlbehalten)に基いた語と思はれるが、寫眞では字體を判讀し難い。

⑯ この行以下には、この經の譯述を命じた人、譯者、原本等について記述し、その後に卷頭に見えるのと同様の經名を繰返す。

たものであらうか。